

は じ め に

四方を海と川に囲まれた千葉県は、房総丘陵、下総台地、九十九里平野など多様な地勢のもと、600万人を超える県民が暮らしており、都心に近い北西部を中心に大規模団地やマンションが、南部や北東部などに戸建て住宅が多く分布しています。一方、全国2位の急速な高齢化の進行、空き家の増加、住宅確保要配慮者の増加などの問題が顕在化しています。また、昨年3月に発生した東日本大震災は、原発事故によるエネルギーの制約や広域的な災害における迅速な一時的住宅の提供などの課題をもたらしました。このような状況の中、県では、「住生活基本法」に基づき、平成23年度から平成32年度までの10年間を計画期間とする「第2次千葉県住生活基本計画」を本年2月に策定しました。

第2次計画では、『豊かな地域社会の実現』、『良質な住宅ストックの形成』、『良好な居住環境の形成』、『住宅市場の環境整備』、『住宅セーフティネットの確保』、『地域特性に応じた施策の展開』という6つの目標を掲げており、これに沿って施策を展開していきます。そして、県民をはじめ、県、市町村、更には事業者、NPO等の多様な主体が、連携・協働を行うことにより豊かな住生活を実現していくことを目指しています。

また本年6月には、県営住宅ストックの効率的な活用と適正な管理を行うために、これまでのストック活用計画を見直して「千葉県県営住宅長寿命化計画」を策定し、8月には「高齢者の居住の安定確保に関する法律」に基づき、高齢者向け住宅や施設の整備及び高齢者向けサービスの提供の両面における高齢者の居住の安定確保を実現するための方策を示す「千葉県高齢者居住安定確保計画」を策定しました。今後、これらの計画の着実な推進に努めます。

本書は、千葉県の住宅事情と住宅政策を取りまとめたものですが、これにより当課の業務を御理解いただくとともに、資料として御活用いただければ幸いです。